

### 1. 在宅静脈栄養法が QOL の改善に寄与した悪性膵島腫瘍の 1 例

(消化器内科)

西野隆義・

成富琢磨・林 直諒

〔症例〕50 歳，男性．1996 年検診で，多発性肝腫瘍を指摘され，同年 12 月東女医大病院消化器内科に第 1 回入院した．悪性膵島腫瘍および肝転移と診断し，1997 年 3 月膵島十二指腸切除，右半結腸切除術を施行した．1998 年 3 月 25 日摂食不可能となり入院となった．身長 178 cm，体重 50.5 (健康時 68) kg で，TP 6.1 g/dl，Alb 3.2 g/dl と低下を認めた．上部消化管造影では，吻合部の強い狭窄を認め，造影剤は胃内に停留していた．Home parenteral nutrition (HPN) の適応と考え，Broviac カテーテルを挿入した．HPN 導入中の在宅期間は 257 日 (69%) であり，合併症はなかった．HPN により，体重減少および栄養障害を防ぐことが可能であった．

本症例において，HPN は限られた余命の QOL の向上に寄与したと考えられた．

### 2. 内視鏡的胃瘻造設術の手技と合併症

(第二外科)

今井俊一・

亀岡信悟・城谷典保

当科における内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) の適応は自力経口摂取が比較的長期に不可能な患者としており，上腹部手術既往，活動期の胃潰瘍，出血傾向や抗凝固療法中の患者は基本的に不適応としている．この基準により 1999 年 7 月までに脳血管障害 6 例，末期癌 5 例 (肺癌 3 例，舌癌 1 例，膵癌 1 例)，ALS 3 例，脳腫瘍 1 例，大動脈瘤 1 例の計 16 例に PEG を施行した．このうち 8 例 (50%) に創化膿，2 例 (12.5%) に tube trouble の合併症を認めたが，開腹手術を必要とするような重篤な合併症はなかった．当科においては PEG 施行後に慎重な管理を行うため，胃瘻として使用開始するまでに平均 12.8 日の日数を要しており今後の課題であるが，本手技は経口摂取不能な患者に対して安全かつ臨床的に有用な手技であった．

### 3. 婦人科領域における在宅医療の現状

(産婦人科)

矢島正純・石巻静代・

伊地知律子・中林正雄

東女医大産婦人科においては女性性器癌，特に子宮癌や卵巣癌における終末期を迎えるにあたり，在宅医療支援・推進部のご助力により在宅ケアの症例が増えつつある．今回，自宅で死を迎えた 2 症例を提示するとともに，子宮癌における再発部位と在宅医療の管理

の要点について検討した．①子宮頸癌の局所再発と遠隔再発はおおよそ半々であったのに対して，体癌では約 80% が遠隔転移であった．②子宮癌局所再発においては尿路や消化管の閉塞による QOL の低下をきたしやすいものの全身状態は比較的よく保たれるので，在宅医療の適応となりやすい．③子宮癌においては癌性疼痛，イレウス，イレウスからくる栄養障害の 3 点が主たる問題で，それぞれモルヒネ薬の投与，ストマの管理，IVH の管理が課題となる．

### 4. 間歇的自己導尿用親水化カテーテルの開発—小児自己導尿例での検討—

(泌尿器科，\*(株)テルモ)

家後理枝・山崎雄一郎・東間 紘・

志村賢一\*・中川雄司\*・宇野洋之\*

〔目的〕間歇的自己導尿法は神経因性膀胱をはじめ下部尿路疾患治療の基本である．小児例では手技の煩雑さから導尿を怠る場合があり今回手技の簡略化目的で表面親水性カテーテルを作製し，全国多施設の男児 21 例で使用したので報告する．

〔方法〕サフィード®ネラトンカテーテルに親水性コーティングを施行した．カテーテルの基本性能は摺動抵抗の測定を行い，従来のカテーテルに潤滑剤を使用したものと比較した．臨床的には男児 21 例 (平均年齢 9 歳) で使用しアンケート調査を行った．

〔結論〕親水化カテーテルは従来の潤滑剤使用のものよりも有意に摺動抵抗は低値であった．臨床応用では使いやすい反面，抜去時に引っ掛かるとの評価もあり患児のニーズに合わせた改良が必要である．

### 5. 第二病院在宅医療部における訪問診療活動の現状

(第二病院在宅医療部)

山中 崇・村田光範

1994 (平成 6) 年 1 月 26 日に在宅医療部が設置されてから現在までに 95 名を対象とした訪問活動を行った．疾患別にみると，神経疾患 55 名，悪性腫瘍 16 名，呼吸器疾患 10 名，整形外科的疾患 8 名などであった．医療処置としては在宅人工呼吸療法 3 名，在宅中心静脈栄養療法 6 名，在宅酸素療法 13 名など．訪問が終了した 69 名のうち死亡終了した者が 54 名 (当院へ入院後死亡 31 名，在宅死 10 名など) と多かった．1998 (平成 10) 年 4 月の 1 カ月間についてみると，延べ 80 件の訪問診療を行い，所要時間は 32 時間 40 分 (1 件あたり平均診療時間 35 分，移動時間 24 分)，同月の総収入は 2,023,040 円であった．患者さん 1 名あたりの訪問回数